

# 人文学会報

No.75

2015. 3. 18

事務局 鹿児島市下伊敷一丁目52番1号 県立短期大学文学科研究室  
鹿児島県立短期大学 人文学会

電話(〇九九)二三〇一二二一

〈研究室だより〉

## LL教室今昔

久木田 美枝子

退職を目前に控え、今までの県立短期大学での教員生活が走馬灯のようによみがえり、万感胸に迫る今日この頃です。県立短期大学の歴史とともに歩んできたといっても過言でない程、長年にわたり勤務できたのは、ひとえに、今までお世話になった教職員の皆様方の心温まるお支えをいただいたからこそで、改めて、お一人お一人に心から感謝の言葉を申し上げたい気持ちで一杯です。

特に、本学での教員生活で一番長く、また一番脳裏に焼き付いているのは、英語英文学専攻の学生を対象としたLL教室での授業です。本学にLL教室が設置され、その授業が開始されたのは昭和53年でLL

教室の設計その他詳細は、今は亡き門田先生が築かれたものでした。私が着任当初から、LL教育の責任者として学生への自由な語学環境を提供するためにいろいろアイデアを提供して下さい、と言われ、途方に暮れたのも今では遠い昔のことになってしまいました。幸いにも私の周辺には、恩師達をはじめとして、若き時代一緒に研究の道を歩み始めることを誓いあった友人達の惜しみないアイデア提供があり、試行錯誤しながら、英語英文学専攻の学生の総合的英語運用能力の養成に力を入れてまいりました。当時は、鹿児島で、LL教室が設置されていたのは、本学と鹿児島工業高等専門学校のみであったため、鹿児島大学の語学系の先生方が、本学のLL教室をしばしば見学にいらしていたのも、つい最近のような感じがあったしております。

私が授業をやっている、一番感動したのは、英語英文学専攻の学生の向上心に

満ちた学ぶ意欲の素直さでした。好奇心に満ち溢れた輝いた眼で、LL教室の授業に真剣に取り組む姿にはいつもある種の敬意の念を覚えずにはいられませんでした。毎年、LL教室での授業は、ブースを指定しているため、多くの卒業生のお顔がブース毎に次々に重なり合い、まるで連写のようなイメージで眼前にちらつきます。この教室で、英語を学ぶ楽しさを覚えた学生は、卒業後も大きく成長していくのも、私の大きな楽しみの一つになってきていました。

LL教室での実践は、クラッシュエンのナチュラルアプローチを基盤としていました。すなわち英語をシャワーのように浴び続けると学習者の自覚がなくても、頭の中には潜在的英語能力が蓄積されるというものです。無意識に蓄積された英語の言語資料によって、徐々に自力で、規則の発見の過程を体験しながら、着実に第二言語獲得の路線を歩み続けることが

# また会う日まで

中谷 彩一郎

できるというアプローチです。昨今、大学での英語教育の大変革が求められています。数年前、日本英語学会での英語教育についてのシンポジウムの際、「発見の過程のない英語教育は、真の英語教育とは言えない」と、某有名大学教授が声高に提言していたのを聴き、非常に感慨深く思ったものでした。

英語英文学専攻の学生の皆さん！  
県立短期大学で楽しく学んだことをベースにして、生涯に亘って、英語と何らかの関わりを持ち続けることを期待しています。

本当に、一緒に学んだ楽しい一時を有難うと心から皆さんに申し上げたい気持ちで一杯です。

(文学科英語英文学専攻 教授)



鹿児島県立短期大学には、ちょうど五年間お世話になりました。ふりかえれば、長いようであつという間の五年でした。

文学研究者、とりわけ西洋文学を研究する者にとっては就職氷河期の今日、イギリス留学中から国内外何十もの公募に応募しては何度も書類審査段階で落ちました。そんな中ようやく採用された初めての専任の職なので、県短には深い感謝と

思い入れがあります。鹿児島という土地も、桜島をはじめとする雄大な自然に加え、食べるのも料理をするのも大好きな人間としては、魚介類も牛も豚も鶏も、野菜も果物も美味しくて、生活の質という点では最高のところでした。歴史や文化の点でも、大都会ではとっくになくなっ

てしまったものが、鹿児島には辛うじて残っているところが大きな魅力でした。

県短では、教養科目の英語や文学の世界、専門科目として日本文学専攻や経済

専攻にもまたがる比較文化、さらには第二部の授業を通して、行事では(かつてあった)夏祭りのラムネ早飲み大会や前夜祭の仮装を通して、またクラブ活動でも県短ライブライークラブや(今はもう解散してしまいましたが)哲学カフェ同好会の指導者として、あるいは生協理事として、文学科教員の中でもとりわけ、さまざまな専攻にわたる多くの学生と接する機会があつたのではないかと思えます。特に文学科では、英語英文学専攻はもちろんですが、日本語日本文学専攻の学生も教養英語を中心に毎年半数以上を教えることができたのはいい思い出です。

仕事以外の日常生活では、薩摩琵琶と出会えたのも大きな収穫でした。三年間稽古に通って、ようやく十分前後の端唄なら数曲弾き語ることができるようになりましたが、さらに長い戦記物まで一通り弾奏できるようになるには十年はかかると思います。幸い、現在の師匠の道場が東京にもあるので、これからも月一度は稽古を続けるつもりです。同時に天吹(てんぶく)という薩摩に伝わる竹笛も習い始める予定なので、こうした伝統文化

を通じて鹿児島とは一生関わっていくことになるかと思えます。

このように、五年の間にすっかり土地に根付いていたので、まだまだ当分鹿児島にいるつもりだったのですが、思いがけずお誘いいただき、四月から慶應義塾大学文学部に古典ギリシア語とラテン語の教員として移ることになりました。県短では英語あるいは比較文化の先生と思われていることが多いのですが、実は西洋古典学という古代ギリシア・ローマの文学が私の専門です。ただ、イギリスに留学して日本での英語教育経験があったのと、ギリシア・ローマの古典文学が現代のヨーロッパや日本の文学にどのような影響を与えたのかという研究もしていたので、英語英文学専攻で比較文学担当の教員をしていたわけです。イギリス留学から帰国して八年半、ようやく自分の本来の専門である西洋古典学を教えられるようになるので、研究者としてはこれ以上のことはないのですが、その一方で失うものも沢山あります。新たな職場では、演習形式の授業はあるものの、県短のように自分のゼミを持つことはも

うありません。また、大きな大学なので、学生との距離もこれまでよりは近く感じられなくなるかもしれません。したがって、私にとつて本当の意味での教え子は、これからもずっと県短の学生たちだと思っています。

そんなわけで、同僚や友人、教え子の皆さんに会いにちょくちょく鹿児島には戻ってくるつもりなので、中央駅や文芸館付近で私にそっくりな人を見かけても、決して他人の空似とは思わずにぜひ声をかけてみてください。

それではまた会う日まで。ごきげんよう。

(文学科英語英文学専攻 准教授)



〈卒業にあたって〉

## 変化を求めた二年間

文学科日本語日本文学専攻

児田彩華

二年生後期の試験がすべて終わり、あと一ヶ月すれば卒業式があるという現実を前に、改めて二年間という月日が過ぎるのは早いなあ、とその短さを実感しています。

私は一浪して再び第一志望の大学に落ちた末に、県短へ入学しました。入学当初は二度の受験失敗のショックから立ち直ることに精一杯でした。とにかく、このままの私ではいけない、変わらなければと思い、今までの私ではやらなかったであろうことに挑戦しようと思いました。授業を中央最前列で受けるという取り組みは、友達の実験をしただけでしたが、高校時代に後ろの席を陣取って授業を受けていた私にとっては大きな挑戦だったと思います。

日本語日本文学の名の通り、授業の内容は日本の語学や文学中心のものでした。

小さいころから本が好きだった私にとっては、自分の趣味を大学で学んでいるようで、とても有意義な時間を過ごせました。また、県短のイベントでは思いっきり盛り上がりました。特に県大祭の期間中は、前夜祭でコスプレをし、文化祭で日文のみんなとダンスを披露し、学内開放でサークルやゼミが催しものやっているブースを巡るなど、楽しいことばかりでした。

二年生になり、待っていたのは進路という壁でした。理想は四年制大学への編入でしたが、両親と話し合い、大学へのチャレンジは今回で最後にすると決めていたので、もし駄目だった場合のことも考え、公務員や一般企業への就職も視野に入れていました。不安も大きかったですが、やらないで後悔するよりはまじだと思い、不合格・不採用の通知が来たときははいつも、高村光太郎の詩「道程」の「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」という言葉をモットーに、もしこれから挑戦することが前例のないことだとしても、私が成し遂げてやろうという気持ちで、あまり落ち込まないよう前向きな姿

勢でいるように心がけました。編入試験に合格したと分かった直後は驚きすぎて呆けていましたが、家へ帰って実感が湧き、嬉しさのあまり母と一緒に号泣しました。

進路が決まると、卒業論文に本格的に取り組むようになりました。卒業論文に関して、割と早い段階から準備をしていて、二年の四月ごろには太宰治の「葉桜と魔笛」という作品を研究しようと考え、前期のゼミでの発表を通してさまざまな視点から作品を読む努力をしました。十ページもない短編のはずなのに、視点を変えると読み方も変わってきて、さすが太宰治と唸りながら本とにらみ合いをしていたことは今となっては良い思い出です。十一月末には卒業論文のほぼ完成に近いものを書き上げて先生へ提出し、その後は先生から添削してもらったものを参考に書き直すという作業を数回繰り返し、予想以上に余裕をもって完成させることができました。ずぼらな私を最後までサポートしてくださったゼミの先生には感謝しています。

県短の二年間で知識・資格・経験など

様々なものを得てきましたが、一番の収穫は友達がたくさんできたことだと思います。学校生活を送るうちに、気兼ねなく話せる友達がたくさんできました。休み時間に他愛もない話で盛り上がることで、学校に行くのが楽しくて仕方なかったです。

友達という心の支えのおかげで、私のモチベーションはどんどん向上していったと思います。高校時代には叶わなかった英検二級に合格したり、一ヶ月で運転免許を取得したり、ボランティアに参加して静岡県名物の富士宮焼きそばの売り子をやったり、市役所で臨時職員として働いてみたり、いろいろなことに挑戦しました。その過程で多くの人と交流しました。出会う人一人ひとりに振舞い方・心の在り方があり、尊敬できる部分はなるべく自分に取り入れていく努力をしました。この努力を編入先で活かせるようにこれからも頑張っていきたいです。日文のみんな、先生方、学生課・教務課の方々、本当にありがとうございました。

## 二年間を振り返って

文学科日本語日本文学専攻

東 実 咲

鹿児島県立短期大学で過ごした二年間は、私にとって充実した毎日でした。入学した頃は、二年間という短い間に進路選択や卒業論文、学生のうちにやっておきたいことなど、しつかり取り組むことができればだろうかという不安がありました。学生生活も、単位のことを考えながら自分で学びたい授業を選択することや文章を書いたり発言したりする機会の多さに圧倒され、高校までとの違いに戸惑うこともありました。しかし、少しずつ慣れてくると、短い学生生活だからこそ、できるときに何でもやっておこうと思うようになりました。気持ちや時間にも余裕ができ、様々な活動に参加したりアルバイトも始めたり、多くの新しい経験と楽しい思い出をつくることができました。

特に、一年生の夏に友人と中国へ行ったことは印象深い思い出の一つです。中国に興味を持つようになったのは、鹿児島県立短期大学に来ていた交換留学生との交流がきっかけです。授業やサークルの活動を通して親しくなり、中国に滞在中は、その友人に大変お世話になりました。彼女の自宅にも招いてもらい、家族の方も温かく迎えてくれました。食べきれないほどの量の美味しい料理を作ってもらったり、様々な場所に連れて行ってもらったり、とても親切にしてもらいました。街を歩いているときは、小学生に英語で話しかけられたり、大学生に日本語で声をかけられたりしました。その小学生は、私たちが話す日本語に興味があって声をかけてきた様子で、大学生の人は日本の芸能人やドラマが好きだということでした。日本に興味を持ってくれる人たちがいて、積極的に声をかけてくれるのはとても嬉しかったです。また、移動中に足が浸かるほどの大雨が降った日があり、その時は多くの人に助けられました。水で地面が見えない中、段差があるから危ないといって手を引いてくれた人やキャリーケースをバイクに乗せて運んでくれた人、両手に抱えて歩いてくれた人もいました。一度限りの出会いだ

と思いますが、ただの旅行者のために多くの人が親切に声をかけてくれて、私にとっては心に残る出来事となりました。また、中国には多くの史跡があります。中国の長い歴史を感じたり、広大な土地に衝撃を受けたり、心揺さぶられるものばかりでした。しかし、有名な観光地だけでなく、中国の日常生活の雰囲気を感じることもできたことも貴重な体験だったと思います。中国について知り、日本の話題でも交流ができ、有意義な旅行となりました。

二年生になってからは、就職活動と卒業論文に本格的に取り組み始めました。就職活動では、様々な指導を受けたり企業の方の話を聞いたりする中で、これまでの自分を振り返り、これからどうなりたいか、自分自身についてじっくり考えることができました。卒業論文では、自分の考えをこんなに長い文章にして表すのは初めてで、書き終わったときは達成感がありました。卒業論文を通して、これまで親しみのなかった中国文学の本も読むようになり、図書館に行く機会も増えました。うまくいかないことや大変な

## 県短徒然草



文学科英語英文学専攻

阿辺山 恵 美

ときもありましたが、新しい知識を得たり、確かな情報はどれだろうかと様々な資料を集めたり、多くのことを学んだ一年になりました。また、これをきっかけに、これまでなかなかできなかった読書もするようになりました。スマホを見る時間が読書に替わり、より充実した時間を過ごすことができた一年だったように思います。せっかくなので、これからも読書を続けていけたらと思います。

四月からはよいよ社会人です。この二年間で、多くの人に出会い、学び、楽しい思い出をつくることができました。この経験を忘れず、頑張っていきたいと思います。二年間本当にお世話になりました。



私にとってこの二年間はとても短く、あっという間に過ぎていきました。優等生とは真逆の存在である私が、なぜこの原稿を書いているのかとても不思議です。しかし、このような機会を与えられなければ振り返ることもなく卒業していったと思います。私が学生生活を振り返るのを避けていたのは、まだ卒業したくないという気持ちからだと思います。振り返ると、全ての出来事が小さいけれど大事な思い出です。入学当初は、まさか七人もの大所帯のグループで一緒に行動するとは思いませんでした。スケジュール帳が充実している癒し系のしつかり者、美人なのにずば抜けておもしろい三星健児、料理上手で恋愛経験豊富で私とは真逆の子、かわいいのに言葉遣い悪くてヲタクだけどやっぴりかわいい子、他に類を見ない意外と常識人な明和の民、鹿児島に染められたおしゃべりな視野の広い

子。全員私にとってなくてはならない存在になりました。英文専攻は一人一人とも個性が強くて、いざ離れるとなると寂しいです。文化祭では惜しくも賞は逃しましたが、全員で完成させた発表は参加してとても楽しかったです。私の中では一位でした。英文パーカーは大事にします。このメンバーで卒業できることが嬉しいです。多くの友人と関わる中で、吸収できることは自分のものにして、他人の失敗から学んだことはこれからに活かしたいと思います。周りがキャラの濃い人達ばかりで、その分刺激も多く、人間的に成長することができたと思います。

入学した時、四年大であることを二年の間で終わらせ、内定ももらわなければならないと、忙しさを覚悟していました。しかし、教職を取らなかつたことも影響してか、それなりに余裕を持つて学生生活を送ることができました。英会話の授業はもちろん、英文学史や比較文学、英語音声学など座学も楽しく、さらに学んでみたいと思いました。県短への進学が決まったとき、英語力を伸ばすというお

おまかな目標しありませんでした。しかし、ゼミの教授でもあるアダメック先生に出会えたことで、私の英語に対する考え方は大きく変わりました。彼は授業を通して、英語を学ぶ上で大事なことを教えてくれました。世界にはネイティブスピーカーと呼ばれる人など存在しないこと。完璧を求めるよりも、シンプルで伝わりやすい方が重要であること。間違いを恐れるのではなく、語学を楽しみ果敢に挑戦すること。挙げるとキリがありません。これらのことは、日本を外から見られる彼だからこそ分かる日本の英語教育の問題点であり、語学を学ぶ上でま

ず心得ていなければならないことでした。そしてそれは、今まで海外に行ったこともなく、二十年間日本人に囲まれて、日本の文化の中で生きてきた「純日本人」であった私にとってとても新しいことでした。こうして二年間学んだ結果、英語で卒論を書き、英語で卒論発表会を終えることができ、とても満足しています。

二年間の学生生活を充実させるのに、サークル活動も重要でした。私は書道サークルに所属していました。週に一度しか練習時間はありませんでしたが、筆を握

ることで気持ちをリセットすることができました。松元先生の指導の下、新たな書体に挑戦したり、書道パフォーマンスに参加したりしました。二年間の活動を、軸三本と図録に残すこともできたので、サークルに入って本当に良かったと思います。

こうして無事に卒業でき、二年間の学生生活を満足して終えられるのも、全ての周りの人達のおかげです。家族、友人、先生、バイトの仲間、皆に感謝しています。これからは、お世話になった人達に恩返しするために社会人として頑張ります。時折、県短での出来事を思い出しながらも、自分のペースで成長していきたいと思えます。ありきたりかもしれませんが、本当に県短に入学してよかったです。



## 発見と成長

文学科英語英文学専攻

横田 瑞稀

2年間を振り返っていると、卒業し、鹿児島を去ることが寂しくて仕方ありません。県短で過ごした2年間は今までの人生で一番濃く、大切な時間になったように思います。

県短に入学した2年前、学生生活とともに、一人暮らしが始まりました。親に甘えて生活してきた私にとって一人暮らしは不安なことだらけでした。学生生活においても、単位の意味さえわからない状況でした。その中で唯一、教職を取ることは自分の意思で決めました。資格を持つていれば将来役に立つだろうという思いがあったからです。教職を履修したことは自分の進路に大きく影響したなと思っています。

まず、編入を本格的に考えるきっかけになりました。入学当初から編入に興味はありましたが、教職の講義の中で編入すれば一種の免許を取れるという話を聞

き、進学する気持ちを固めました。卒業後のことをあまり深く考えていなかった私にとって教職を履修したことはとてもいい刺激になり、プラスになったと思っています。

そしてもう一つ、教育実習や介護等体験での経験が自分を大きく成長させてくれたのではないかなと思います。教員免許を取るための実習として、特別支援学校での実習、老人ホームやデイサービスでの実習、中学校での教育実習がありました。すべての実習で働く事の難しさや人と関わることの大切さと難しさを学びました。中高とコミュニケーション力に自信のなかった私にとって、自分から積極的に人と関わるということは、一番乗り越えるのが難しい壁でした。しかし、実習先で子どもたちや高齢者の方々と接してみても、人と関わるということは楽しいことなのだなと思えるようになりました。自分の殻を破るのは簡単なことではないですが、それをすることによって今まで苦に感じてきたことが楽しくなるのだと気づかされ、もっと色々な人と関わりを持ちたいという気持ちも出てきました。

た。教職を履修したことで、時間割は他の人と比べていっぱいになるし、集中講義で休日が潰れたりもしましたが、それも有意義な時間だったと思えるくらい教育について学んだからこそ自分が成長できたのではないかなと思います。

この2年間を通して気付かされたことが他にもあります。自分の今までの人生は常に行き当たりばったりだったということです。目標や、やりたいことが特になく、自分の将来を想像することを極力避けていたことに気がつきました。私はあと2年、学生生活が続きますが、この2年間は自分がどんなことをしたいのか、どんな職業に就きたいのか、じっくり自分と向き合いたいと思います。就職活動をする時に、自信を持って自分をアピールできるような人間に成長できていければいいなと思います。

最後に、同じく一人暮らしであることから、支えあい、協力し、多くの時間を共にしてくれた友人2人にありがとうと言いたいです。実家から離れて暮らすことの心細さや、生活面において1人では不安なことなどを共有し、解決できたか

らこそ、この2年間が充実していて楽しかったと言えらると思います。この先、それぞれの道で活躍し、今度はお互いが知らない様々なことを共有し、成長していけるような存在でありたいし、あってほしいなと思います。

鹿児島県立短期大学で共に学んだ英語英文学専攻のみんなや、サークルで共に活動した友達、自治会で関わった方々など、鹿児島での出会いをこれからも大切にしていきたいです。また、ここで見つけた自分の課題を胸に、新たな地で、新たな出会いの中で成長していきたいです。

### 《編集後記》

中谷先生に、二号連続での執筆をお願いすることとなるとは思っていませんでした。新天地での活躍を祈念しております。

『人文学会報』は文学科ホームページ(<http://www.k-kentan.ac.jp/it/>)で、『人文』は鹿児島県学術共同リポジトリ(<http://karn.lib.kagoshima-u.ac.jp/>)で公開しています。卒業後もときどきチェックしてみてください。(望月)

## <平成26年度卒業研究標題>

### 文学科日本語日本文学専攻

#### 氏名

#### 卒業研究標題

#### 《竹本ゼミ …… 日本文学・近代》

有川 奈々	谷崎潤一郎『少年』 一女中の役割について
有本 愛梨花	国語教科書採録作品の変化について —『ごん狐』、『手袋を買いに』、『白いぼうし』を教材化の視点から—
石谷 未希	高見順「故旧忘れ得べき」「いやな感じ」 —戦前と戦後の作品に描かれる女性の変化から読み取れること—
大小田 春菜	梶井基次郎「桜の樹の下には」の「桜」についての考察
児田 彩華	太宰治「葉桜と魔笛」論 —隠されたもう一つのテーマ—
瀬谷 愛生	『遠野物語』における河童についての考察 —遠野の河童は何故赤いのか—
園田 藍	中島敦「過去帳」と『山月記』 —「過去帳」を基にした『山月記』の読み方の考察—
深水 雅	芥川龍之介「杜子春」をどう読むか —芥川の意図についての考察—
峰 真知子	『金色夜叉』についての研究 —金色夜叉前篇から見る宮と貫—
三原 真梨	江國香織「冷静と情熱のあいだ Rosso」 辻仁成「冷静と情熱のあいだ Blu」 —ジェンダーから見る、男女の恋愛観—

#### 《木戸ゼミ …… 日本文学・古典》

川畑 智美	『源氏物語』末摘花人物論 —容姿と性格に着目して—
藏本 恵	『赤染衛門集』に見る、赤染衛門と大江為基関係とその心情についての研究
栗巢 真耶	和泉式部日記の自作説の正当性 —物語の叙述から—
鶴田 真希	『源氏物語』若菜巻における女三宮論 —降嫁から「月待ちて」まで—
古川 真衣	「虫めづる姫君」の人物論
前田 美咲	『堤中納言物語』「はいずみ」—新しい女の失敗についての考察—
前平 奈江	『今昔物語集』 一卷第二十七第二十四話の霊についての考察—
松元 美涼	『更級日記』の夢と神仏の関係性
南 泰子	赤染衛門の良妻性について
篠田 千夏	日中後宮比較

#### 《土肥ゼミ …… 中国文学》

栄 文香	『三言』における女性の自尽について —貞節を中心として—
東 実咲	「桃花源記」の思想的背景
山崎 春奈	剪燈新話の幽霊 —雨月物語の幽霊との比較から—
和田 詩穂美	聊齋志異における狐の役割

#### 《楊ゼミ …… 日本語学、日本語教育学》

今村 ありな	LINEスタンプの機能の分析 —絵文字や顔文字と比較して—
江籠平 結名	若者言葉の年代別による使用と受容
徳留 絵里	オノマトベの語義の変遷 —中古から近現代にかけて—
繁多 夏紀	少年漫画と少女漫画のオノマトベについて
南 優希	一人称の表記形態とそれぞれが持つイメージ
福元 未来	マンガにおけるオノマトベ —非慣習的用法を中心に—

#### 《望月ゼミ …… 日本語学、上代文学》

赤羽 愛理	「お嬢様ことば」がもたらす効果
上新 真奈	家族間のコミュニケーションの変化 —ポライトネスの観点から—
川畑 優衣	歌謡曲からみる「ら」抜きことばの現れ
白濱 綾菜	「女ことば」についての研究
野間 晶乃	辞書から見る和製英語
山田 美穂	明治時代から現在へのオノマトベの変遷
脇村 百合恵	新聞の商品広告におけるオノマトベについて

## <平成26年度卒業研究標題>

### 文学科英語英文学専攻

氏名

卒業研究標題

#### 《英語学演習》(指導教員:久木田 美枝子)

赤池 優 僖	What is the Most Ideal Way to Learn English for Japanese
植村 美 鈴	Problems of English Education in Japan
大井 佳南子	For a Better English Education in Japan
清水 り な	The Importance of Practicing Pronunciations
瀧田 紫 保	A New Approach to Acquire English by the Relation between Thought and Language
引地 波 月	English Education in Asian and European Countries —in Comparison with That in Japan
松尾 瞳	A Better Approach to Teach English on Questionnaires
村尾 瑞 姫	Efficient Teaching Methods of English

#### 《英語学演習》(指導教員:遠峯 伸一郎)

網屋 智 子	二重属格 of mine と共起する名詞について
末藤 由 樹	ディズニー映画の挿入歌における助動詞 can の訳され方について
瀬崎 大 輝	『となりのトトロ』(英語吹き替え版)に見られる台詞の付け加えについて
高石 万悠子	日本語と英語の色彩語の比較
山田 彩 文	『マイ・フェア・レディ』におけるコックニーについて
山口 彩 花	「鬼」と devil の慣用表現における役割について

#### 《英米文学演習》(指導教員:轟 義昭)

曾我部 朋	映画から学ぶアメリカ社会の人種差別問題
津曲 菜 美	「語り」に注目して読む『嵐が丘』
鍋田 鞠 夢	ヴィクトル・ユーゴー『レ・ミゼラブル』とその映像作品の比較研究
堀 愛 理	シェイクスピア『マクベス』と黒澤監督『蜘蛛巣城』の比較研究
山元 優 佳	ジェーン・オースティンの映像作品からよみとる舞踏会の存在

#### 《英米文学演習》(指導教員:フィリップ・アダメック)

Ayano Kamba	The Year of Enrichment
Ayumi Nozawa	Performing the Peace Sign in Japan
Mai Miyazono	Children for Chocolate, Chocolate for Children
Emi Abeyama	Wonderful Weed So Near, So Far
Ayano Nishimuta	The Mouse and Rabbit Are Friends of Just Causes
Hazuki Fukumitsu	Critique of Philanthropy and Goodness in Henry David Thoreau's <i>Walden</i>
Yukina Ebihara	What Should I Call You? On Personal Names in English and Japanese
Yuki Hirata	On Becoming a Spokesperson for Taiko

#### 《比較文化演習》(指導教員:中谷 彩一郎)

石田 未 来	FROZENと『アナと雪の女王』と時々『雪の女王』
伊藤 梓	映画 <i>ROMEO+JULIET</i> と原作『ロミオとジュリエット』の内容比較
川田 凜	なぜ日本は歌わないのか ~ミュージカル映画における日米比較~
下築 千 賀	レディ・ガガの伝えたいこと
鶴園 莉 奈	アメリカ映画にみる働く母親について
福浦 麻里菜	日米のヒーロー比較
福元 里 歩	夢と感動の物語ができるまで —ディズニー映画『塔の上のラプンツェル』と原作『ラプンツェル』の内容比較—
横田 瑞 稀	くまのキャラクターはなぜ愛されるのか